



日本昆虫学会 第 67 回大会

公開シンポジウム

日本昆虫学会は、90年の歴史をもつ、昆虫を対象としたわが国を代表する学会で、大学や研究機関の昆虫学研究者の多くが所属しています。2007年度は、神戸大学を会場に、年次研究発表大会が行われます。大会にあわせて、学会会員以外も自由に聴講いただける公開シンポジウムを企画しました。この機会に、学会の風にふれてみませんか？

9/16
(日)
15:00-17:00

9/17
(月・祝)
13:00-15:30

神戸大学

参加費無料・申込不要
当日会場にお越し下さい
開場は開始 30 分前です

Sep. 16 Sun

公開シンポジウム 1 種の存在様式と時間

9月16日(日) 15:00~17:00 百年記念館 六甲ホール (定員: 300名)

虫たちは季節や時間をどうやって知り、適応しているのか。生物の大きなナゾに迫ります。

主催: 第67回大会実行委員会、世話人: 竹田真木生

S201 正木進三(弘前大学): 生活史の季節・機構適応と種の分化

S202 竹田真木生(神戸大学大学院・農学研究科): アメリカシロヒトリ種分化と時間的な隔離

S203 宮竹貴久(岡山大学大学院・環境学研究科): 発育時計と概日時計とアロクロニックな生殖隔離

Sep. 17 Mon

公開シンポジウム 2 2050年の博物館

9月17日(月・祝) 13:00~15:30 瀧川記念会館 (定員: 150名)

博物館は、資料・情報が集積する、科学へのゲートウェイ。博物館の未来を、学芸員らとともに考えます。

主催: 昆虫担当学芸員協議会 世話人: 金沢 至(大阪市自然史博)・八木 剛(兵庫県立人と自然の博物館)

S311 八木 剛(兵庫県立人と自然の博物館): 博物館のつかい方、つかわれ方—「2050年の博物館」序にかえて—

S312 川上 靖(鳥取県立博物館): 地方の博物館はどう歩むべきか—カメラ付き携帯電話を使った住民参加型調査から—

S313 野本康太(伊丹市昆虫館): 昆虫の魅力を引き出し、より分かりやすく伝えるために

S314 直海俊一郎(千葉県立中央博物館): 2050年の分類学と種分類—自然史博物館の活動の枠組みの中において—

公開シンポジウム 3 海浜と海浜性昆虫の現状と保全

9月17日(月・祝) 13:00~15:30 百年記念館 六甲ホール (定員: 300名)

自然海岸が減少し、海浜性昆虫の生息環境も悪化しています。海浜における生物多様性保全について考えます。

主催: 日本昆虫学会自然保護委員会 代表: 石井 実(自然保護委員長: 大阪府大)

S321 開発法子(日本自然保護協会): 海浜と海浜性昆虫の現状と保全—市民参加の海岸植物群落調査から—

S322 郷右近勝夫(東北学院大学・工学部): 海浜の訪花性昆虫の現状と保全

S323 佐藤 綾(琉球大学・理学部): 海浜性ハシモユウ類の現状と保全

S324 宮下 直(東京大学大学院・農学生命科学研究科)・八幡明彦(ピオトープ研究所)・鶴崎展巨(鳥取大学・地域学部): 絶滅危惧種イソコモリグモの各地の海岸における生息状況と保全

※ 日本昆虫学会第67回大会は、2007年9月15日から17日にかけて行なわれます。一般講演の聴講には、大会参加費が必要となります(当日申し込み可)。くわしくは、日本昆虫学会のホームページをご覧ください。
<http://www.soc.nii.ac.jp/entsocj/home.htm>



神戸大学への交通

【徒歩】 阪急「六甲」駅から約15分

【バス】 阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅から神戸市バス36系統「鶴甲団地」行、「鶴甲2丁目止まり」行き乗車、「神大文理農学部前」下車。阪急「六甲」駅から約5分。

※ 駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。

問合せ

兵庫県立人と自然の博物館 八木 剛(日本昆虫学会近畿支部幹事)

電話: 079-559-2001(代) E-mail: yagi@hitohaku.jp

